

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果概要

白石市教育委員会

1.調査の概要

<調査の目的>

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から

- (1)全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

<調査概要>

調査実施日	令和7年4月17日(木)
調査対象	小学校6年生195人、中学校3年生201人
調査事項	教科調査(国語、算数・数学、理科)、質問調査
その他	本調査結果は、学力の特定の一部分であり、学校での教育活動の一側面である。

<平均正答率>

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科※
白石市	60	50	51	55	43	516
全国	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

※中学校理科はCBT方式(ICT端末を活用した調査)で実施され、IRT理論(項目反応理論)に基づきスコアを算出。
IRTスコアは500を標準としている。

2.教科に関する調査結果から

◎は成果が見られた内容 ▲は課題の見られた内容

<小学校>

国語

- ◎ 話し合いにおける発言の意図に応じて話の内容を捉えること
- ▲ 資料や文章から必要な事柄を見出し関連付けること
- ▲ 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

算数

- ◎ はかりの目盛りを正しく読み取ることや図形を正しく作図する方法を選ぶこと
- ▲これまで学習した内容や考え方を用いて面積を求めることや計算の仕方を説明すること

理科

- ◎ 実験や観察の結果を整理し、まとめることや差異や共通点から見い出した課題を表現すること
- ▲これまで学習した内容や考え方を用いて正しい実験のやり方や事象の根拠を説明すること

要因:授業で取り組んだ内容が知識や技能として身に付いている。

授業や普段の生活の中で、学習した内容や資料から分かる情報を関連付け、自分の考えをまとめたり説明したりする活動が不足している。

今後の取組:授業において知識や技能を着実に身に付ける指導を行う。AIドリルの活用など復習の仕方を指導する。

授業の中で、自分の考えや学習した内容を級友に説明する場面を設けるなど、集団での対話的な学びにより、学習内容を理解できるような授業改善に取り組む。

<中学校>

国語

- ◎多くの問題で良好な結果であり、特に論理の展開に注目し話の構成を工夫すること
- ▲読み手の立場に立ち、表記を確かめて文章を整えること

数学

- ◎ グラフから情報を読み取ること
- ◎ 数学的に考え、問題解決の方法を説明すること
- ▲ 数学的用語を使い問題に答えること
- ▲ 式の意味を読み取り、事柄が成り立つ理由を説明すること

理科

- ◎ 身の回りの事象から生じた疑問を解決するために課題を設定できること
- ◎ 実験や観察の結果や他者の意見から自分の考えを説明すること
- ▲ 知識や技能を用いて、事象を関連付け、要因等を分析し解釈すること

要因:教材から情報を読み取り、自分の考えをまとめることや学習した内容を説明する活動に取り組んでいる。

様々な情報や知識を関連付け、要因を分析したり、理由を説明したりする活動が不足している。

基本的用語、知識や技能など、以前に学習した内容を忘れてしまっている。

今後の取組:教材から読み取ったことや既習の知識や技能を生かして解決する課題に取り組ませるとともに、それらを別の課題で活用できるか確認することや疑問を追究することで深く理解するような授業改善に取り組む。

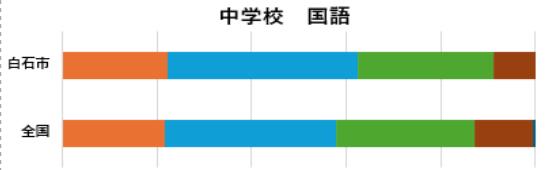
単元の学習計画に意図的に復習する機会を設定し、系統的に学習内容を理解できる工夫に取り組む。

3.質問調査結果から

<学習意欲・社会貢献>

「国語・算数（数学）が好き」について

■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる
■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない



○小、中学校ともに、約6割の児童生徒が国語・算数（数学）を「好き」と回答

○「人の役に立つ人間になりたい」の質問も、小、中学校で9割以上が肯定的に回答

<授業に臨む姿勢>

「主体的・対話的な学び」について
※肯定的回答の割合

①課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ

小学校75.0% 中学校83.3%

②話し合う活動を通して、考えを深めたり、新たな考えに気づいた

小学校76.0% 中学校89.2%

○本市では、①主体的な学び、②対話的な学びの質問に7割以上が肯定的に回答

○特に中学校では、「対話的な学び」では9割近くが肯定的に回答

○「主体的・対話的な学び」を行っている児童生徒は、学力が高い傾向がある

<家庭での学習時間・読書>

「家庭での学習時間」について

2時間以上 1~2時間 30分~1時間

	小学校	13.0 %	27.5%	38.5 %
中学校	22.2 %	40.2%	23.0%	
小学校	13.5 %	35.5%	37.0 %	
中学校	28.9 %	31.4%	28.4%	

○平日と休日の家庭での学習時間にあまり違いがない

○読書をする児童生徒が、学力が高い傾向があり、本市では毎日30分以上読書する児童生徒が約3割であるのに対し、全く読まないという児童生徒も約2割ほどいる

<今後の取組>

○学習意欲や社会貢献の項目は、学力との関係が深く、今後もこれらが高まるような取組を継続する

○「主体的・対話的な学び」を授業改善の一つのポイントとしていく

○ご家庭の協力を得ながら、読書や家庭での学習時間の確保に取り組む

○家庭学習が効果的になるよう、より良い方法を学校で指導するとともに、児童生徒のやる気を育てながら前向きに取り組めるよう、ご家庭と連携していく